

彼らは、・・・従った

マタイ 4 章 18～25 節

イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」
彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。 マタイ 4: 19、20

バプテスマのヨハネが荒野に現れました。ヨハネはイエス様にバプテスマを施しました。その後、主は荒野でサタンの誘惑に遭われました。これらはすべて公生涯の準備期間の時に起こりました。そして、いよいよ公生涯のスタートです。イエス様 30 歳。宣教の働きが開始されました。

——— 弟子を必要とされていたイエス様 ———

さて、イエス様の宣教の最初の働きは、弟子を選ぶことでした。今、イエス様はご自分の伝道の働きを手伝ってくれる弟子を必要としていました。

ビリー・グラハム博士が、ある記者から次の様な質問をされました。「もし先生が、開拓伝道を始められるとしたら、まず何から始めますか？」博士はすぐに答えました。「イエス様がなさった様に、私もまず 12 弟子をつくります。」

4:18～22 節の箇所には、イエス様が、まず 4 人の漁師を弟子として召されたことが記されています

——— 主の招き ———

(4:18 節)「イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。」

イエス様は、湖で熱心に働いておられたペテロ、アンデレ達の働いている姿を、じっとご覧になっていましたが、やがて彼らに呼びかけられました。

ここで、ひとつ教えられたことは、イエス様は世の人々の日常の働きに注目しておられると言う事です。ここでは、ペテロ、アンデレの目の前で働いておられるその姿を、主はじっとご覧になっておられると言う事です。同じように、主はいつも私たちの働いている姿に注目しておられるのかも知れませんね。

(4:19 節)「イエスは彼らに言われた『私について来なさい。あなた方を人間をとる漁師にしてあげよう。』」

ここでは、まず主はペテロ、アンデレに呼びかけられました。

今、ガリラヤ地方の平凡な漁師たちに、決定的な瞬間が訪れました。では、イエス様からの呼びかけに、二人はどの様に応えたのでしょうか？

——— 網を捨てて・・従った ———

(4:20 節)「彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。」と書かれています。それにしても、人はそんなに、すぐに仕事を捨てて、従う事が出来るのでしょうか？

実はこの二人、今まではバプテスマのヨハネの弟子でした。ところがある日、そのヨハネからイエス様を「見よ、神の子羊」と紹介されました。この様にして、イエス様からも二人は教えを受ける事になりました。ところが、彼らの指導者であったヨハネは捕えられてしまったのです。そういうわけで彼らは再びガリラヤ湖に戻り、今は元の漁師の仕事をしているというわけなのです。

彼らは、今まではイエス様を先生として知っておりました。この様なイエス様についての予備知識があったので今、彼らはイエス様からの招きに素直に応えることが出来ました。この 19 節の主からの呼びかけの言葉によって、二人のイエス様との関係は変わりました。教えを学ぶだけの先生と生徒の関係ではなく、イエス様を主として従う者となりました。弟子となったのです。

続けて、イエス様はヤコブと、その兄弟ヨハネを召されました。彼らも、ペテロとアンデレと同じように、すぐにイエス様の弟子となりました。

(21、22 節)「イエスはそこから進んで行き、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと一緒に舟の中で網を繕っているのを見ると、二人をお呼びになった。彼らはすぐに舟と父親を残してイエスに従った。」

この 4 人共、イエス様の弟子になりました。

では、キリストの弟子とされた、この 4 人から学びましょう。キリストの弟子になる人とは、どのような人々なのでしょう？

——— キリストの弟子となる人々の条件 ———

・**その 1**、心の低い、貧しい人です。

イエス様は、この世に来られました。(マタイ 4:15、16 節)「異邦人のガリラヤ。闇の中に住んでいた民・・死の陰の地に住んでいた者たち・・」の所に光を照らすために来られました。その暗黒の中に住んでいる民の中から、まず第 1 号の弟子を選ばれました。ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ達です。彼らはみんなガリラヤの漁師たち、その土地の土着の人々でした。その地方のにおいが生活の隅々にまでしみついている様な人々でした。

特にペテロ、アンデレは、貧しく、無学で、下層階級の人々でした。それでは逆に、インテリや上流階級の人々はキリスト信者になりにくいのか？・・というと、そうではありません。

ヤコブ、ヨハネ、この兄弟は、親子 2 代にわたる老舗(しにせ)を誇る漁師の家の者たち

でした。彼らの家には「雇（やと）い人たち」（マルコ 1:20）もいました。ですから、相当裕福な大漁師であったことが分かります。ちょうど、網元（あみもと）の様ですね。その様な家の息子たちもイエス様の弟子になったのです。

それにしても、貧しいペテロ達の捨てるものは網だけでした、しかし、裕福な大漁師であったヨハネ達は「船と父親を残して」従ったのです。

この事からわかる事は、現実の貧富の差、社会の身分の上下の差などが、問題なのではなくて、大切なのは、自らの無力を認める心、へりくだりの心です。

ペテロ個人について学びますと、（ルカ 5:4～11 節）夜通し漁をして一匹をも取れないでガッカリしていたいたペテロに、イエス様は声をかけられました。「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を取りなさい。」みことばに従って網を下した時に、大漁の奇跡が起きました。いやっというほど罪を感じたペテロは主の足元に跪き「私は罪深い人間ですから」と告白しました。彼はこの様な、心の低い、貧しい謙遜な人でした。

・その2、常に献身を新たにする人です。

ペテロとアンデレは、バプテスマのヨハネによって、イエス様を知り信じました。救い主として信じ従いました。ところがここで、再度召されました。その時、イエス様から召された目的を聞きました。主は言われました。「人間をとる漁師にしてあげよう。」すでに主に従っていた二人でしたが、再度、主に従う決意をしました。少なくともこれは第2、第3の献身でした。今までのつかず離れずの状態から、二人は永久的な師弟の関係に入ったのです。彼らにとってイエス様は、**救い主から主なるお方**になりました。

——— この指止まれ ———

ハンセン病の共生園長島曙教会、大島得雄（うるお）先生の証です。先生は困難な働きが続く中で、献身の思いが挫折してしまうのでした。立秋も過ぎた頃、窓の外に赤トンボを見つけました。そんな時、先生は土師記 6 章 36～40 節のみことばを示されました。そこにはミデアン人と戦うようにと、神様に召された時のギデオンの祈りが記されていました。ギデオンはこの召しが本当にみ旨であるかどうかを次のように祈り確かめました。「もしあなたが、私の手でイスラエルを救おうとなされるなら、・・・羊の毛の上にだけ露が降りていて、土全体が乾くようにしてください。」翌朝、彼がその羊の毛を押しつけて絞ると、鉢一杯になるほど水が出ました。彼は続けてもう一回祈ります。「今度はこの羊の毛だけが乾いていて、土全体に、露が降りる様にしてください。」神様はその夜、その様にされました。

大島先生はこの箇所を原っぱの真ん中で思い出しました。ちょうど彼の回りにはしおからトンボが飛んでいました。彼は祈りました。「私の献身がみ旨ならばトンボがこの指に止まるようにしてください。」そして、その祈りを 7～8 回、繰り返した時に、何とトンボは先生の指の上に止まりました。その場所から先生は再び曙教会へと導かれて行ったのです。

聖書のことば。「わたしがあなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。
このわたしがあなたを遣わすのだ・・・」(出エジプト 3 章 12 節)

大島得雄先生も、繰り返し、繰り返して献身を新たにする方でした。

・その 3、喜んで身を献げる人です。

イエス様は、私についてくれば、何か教えてあげようとか、ご褒美を上げようとか、約束をしていません。むしろ、「人間をとる漁師にしてあげよう。」と言っておられます。

私たちは、今までは、自分が幸せになるために主を信じました。自分が救われるために主を信じました。そう思っていました。でもこれからは、そうではなく「人々が幸せになるために私が救われた、周りの人々が救われるために、私はクリスチャンにされたのだ」と理解すべきです。

あなたの近くにいる友人が救われ、幸福になるために、また、あなたの家族が滅びより救われ、永遠の生命を得るために、「私はまずこの家族の中から、最初に救われ、この家族の中に置かれているのだ・・・」と考えるべきです。

イエス様は、そんな大切な働きを皆さまに期待しておられます。

——— 主に従う時に起こる、主の御業 ———

ペテロとアンデレが、更にヤコブとその兄弟ヨハネがイエス様に従った時、イエス様のお働きは、あっという間に爆発的に広がりました。

(マタイ 4:23～25 節)「イエスはガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病、あらゆるわずらいを癒された。イエスの評判はシリア全域に広まった。それで人々は様々な病や痛み苦しむ人、悪霊につかれた人、中風の人など病人たちをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らを癒された。こうして大勢の群衆が・・・イエスに従った。」

同じように、あなたが「神様に従う」約束をするならば、神様は至る所（家庭内、職場、等々・・・）で、大いなる働きを始めます。あなたと共に、始められます。

イエス様も、皆さまと共に、この浜松の地で、宣教の働きをしたいと願っておられます。主に従いましょう。